

中井だより

中井やまゆり園



利用者の暮らしを豊かに！

副園長 麻生 由美

新たな年が始まり、本来でしたら年頭のあいさつをさせていただくところですが、当園においては、12月中旬から1月初旬にかけ新型コロナウイルス感染症によるクラスターが発生し、ご心配とご迷惑をおかけしましたこと、まずは、深くお詫び申し上げます。

今回の反省を踏まえつつ、「With コロナ」に向けた効果的な感染拡大防止策や感染発生時の利用者みなさまの生活の質の確保などについて、これまで以上に注力してまいります。

さて、昨年を振り返りますと50年の当園の歴史の中でも大変厳しいものとなりました。

令和3年12月末から翌1月中旬にかけに職員等を対象に匿名アンケートが行われ、不適切な支援に関する情報が複数把握されたことを受け、「外部調査委員会」が3月に設置されました。

調査対象とされた91事案については、関係職員、利用者・家族及び医師等約130名へのヒアリング及び関係資料の確認、更には家族へのアンケートなども実施され、4月には調査結果（第一次）が、9月には調査結果報告書が公表され、委員会からは「人権意識の大きな欠如が生じている」「虐待に対する知識及び意識共に欠如している」などの大変厳しい指摘をされました。

当園においては、このような事態を非常に重く、真摯に受け止め、早急に改善を図るべく、民間の支援改善アドバイザーによる支援の実践指導、障がい当事者との意見交換、園内外の日中活動の充実、生活環境の改善などに着手しており、本課とも協力の上、11月には当園での取組みについて、「中井やまゆり園報告会」も開催したところです。

県としては、「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して～」を公布し、本年4月には施行予定であり、当園には、当事者目線の障害福祉の実践が求められています。これからの私たちは、障害の特性・問題行動だけに着目するのではなく、一人ひとりの可能性を引き出し、様々なことに職員も一緒になってチャレンジしながら利用者の暮らしを豊かにしていくことを追求したいと考えています。

今年の干支は、「癸卯（みずのとう）」です。「厳しい冬が去り 春の兆しが訪れる」、「これまでの努力が実り、芽吹き始める」といった年だそうで、まさに中井やまゆり園の再生を後押ししてくれそうです。

これまでの改善に係る取組みを今一度、振り返りながら、「利用者の暮らしを豊かにしていく」という明確な目標に向かって、利用者も職員も笑顔でいられ、癸卯にふさわしい年となりますよう、努力していきたいと思っておりますので、引き続きよろしく願い申し上げます。